

2009年度 事業報告

2009年1月1日から2009年12月31日まで

特定非営利活動法人シマフクロウ・エイド

はじめに

法人設立から2年目となる2009年度は、昨年に引き続き活動の基盤整備に重点を置いた。シマフクロウの保護・保全・支援活動の基礎となる調査・パトロール、給餌、巣箱作成、会員募集や募金活動を継続して行った。また保護の担い手を発掘し育成するためのセミナーや人々へ関心と理解を深める講演会やエコツアーを開催し、シマフクロウが直面している問題を理解し支援する人づくりを促進した。

<各事業の結果>

I 保護・保全・支援事業

1. 給餌

1) 給餌事業

釧路管内の給餌池にて、1月～10月まで計10回実施した。おさかな寄付で集まった資金で活きたヤマメを毎月約20～30kg合計230kgを購入し、シマフクロウのために給餌池へ放流した。給餌池には、ほぼ毎日シマフクロウが飛来しヤマメを食べていることを確認した。

2) 給餌のための募金活動

「おさかな寄付」の募集をホームページ、イベント、会報、入会パンフレット等で呼びかけ、計256,311円寄せられた。

2. 巣箱かけ

1) 巣箱かけ事業

巣箱かけ候補地の選定に向け、釧路管内において、巣箱設置木の選定や周辺環境の調査を行った。また、巣箱の点検や巣材足しを行った。

また、パタゴニア日本支社の助成金と巣箱寄付で巣箱を作製し、環境省の巣箱かけ事業において釧路管内に設置された。

2) 巣箱かけ事業のための募金活動

「巣箱かけ寄付」の募集をホームページ、入会パンフレット等で呼びかけ、計 83,250 円 13 件寄せられた。

3. 調査

1) 調査・パトロール

シマフクロウの繁殖行動を把握し、既存の繁殖個体について継続調査し、未知繁殖地、繁殖候補地を見つけることを中心に、3月から12月まで延べ185回の調査とパトロールを実施した。

2) 調査パトロールのための募金活動

「調査パトロール寄付」の募集を行い、ホームページ、入会パンフレット、会報等で呼びかけ、計 362,150 円 16 件寄せられた。

各調査・パトロール報告

① 繁殖個体の経過観察及びパトロール

繁殖が確認されている釧路管内において、巣立ち後の若鳥や成鳥の観察等を行い、生息環境の変化や人的利用状況等を調べ、必要に応じ悪影響を及ぼす行為に注意を促し、5月から12月にかけて計173回の観察・パトロールを行った。

② 繁殖確認調査

生息の可能性が有りこれまで調査が行われていなかった釧路管内において、3月から12月にかけて計10回の調査を実施した。

③ 繁殖候補地の選定調査

巣箱設置に適した場所の選定調査を釧路管内において実施した。

II 人材育成事業

セミナー

保護の担い手を発掘し育成するために、第2回シマフクロウ保護調査員養成セミナーを8月に1回行い、3名の参加者があった。保護調査員の指導のもと、野外における調査体験を通じてシマフクロウの生態について学び、座学で調査員の実態や保護に必要な事柄についてさらに理解を深めた。

Ⅲ 環境教育事業

講演会

シマフクロウの暮らす環境に関心を持ち、支援や協力の必要性を普及するために、講演会「おしえて！シマフクロウ。どんなおうちに住んでいるの？」を浜中町内で11月に開催し8名の参加があった。巣箱の役割やシマフクロウの保護活動について、写真やイラストを交えたスライドを用いて説明し、今年度作製した巣箱も展示し、参加者が重さや大きさを体験した。

Ⅳ エコツアー事業

シマフクロウが直面している様々な問題とそれに向けた保護活動の理解を深めるツアーを会員限定で通年募集し、1月から10月にかけて計6回実施し8名の参加者があった。エコツアーの収益は、調査・パトロールにかかる経費に充て、シマフクロウの保護活動に還元した。

Ⅴ PR 事業

シマフクロウの窮状やそれに向けた保護活動の必要性を広く多くの人に知らせ、会の支援者を増やし自主財源を確保し、保護・保全・支援・普及活動を推進するために以下のPR事業を行った。

1) ホームページによる PR

活動報告やブログ等を随時更新し、入会や各種問い合わせ等に対応した。また、相互リンク先ホームページで支援者募集を行った。

2) 入会パンフレット等印刷物による PR

入会パンフレット5000部を作成し随時配布した。また会員限定で会報を毎月発行し、エコツアー募集チラシを季節毎に送付し、会の活動や保護活動への理解を深める工夫をした。会員数は、前年度より52名増加し計106名となった。

3) その他の PR 活動

マスメディアによる PR

ラジオ、新聞、雑誌、広報誌等から事業活動や団体紹介等の取材を受け、計6件対応した。